

## お母さんの手とぼくの手と

西岡蓮<sup>にしおか れん</sup>

ぼくは、学校までまい日、歩いていきます。お母さんといっしょに手をつなぎます。晴れの日は、

「れんくん、空がきれいだね。」

と、お母さんが言います。ぼくも空を見上げて、

「うん、きれいだね。」

と言います。学校の近くのまがりかどが、ばいばいするばいばいです。学校の前くまがりかどが、ばいばいするばいばい

「きょうもえがおでがんばろうね。」

お母さんのにつこりえがおに、

「うん、お母さんもがんばって。」

と、ぼくはへんじをして、ばいばいと手をふります。

ぼくのお母さんは、おうちのおみせではたらいしています。だからぼくと歩いた後、まわれ右をして大いそぎで帰ります。そして、おうちのかたづけをして、おみせにいきます。

お母さんのおしごとは、おきやくさんをきれいにするしごとです。マツサージの毛をセットしたり、エステをしたり、きもの着つけをしたらかみの毛をセットしたりもします。お母さんがここにこらつて、手をくるくるつこうかすと、おきやくさんにもここにこえがおできれいになります。「お母さんの手はまほうつかいみたいだね。」とぼくは思います。おうちでは、りょうりにせたく。えんぴつをしゃしゃつとすすめて、ぼくにおべんきょうも教えてくれます。夜は手のひらをきれいにうごかして、ぼくといっしょに日本がよのれんしゅうもします。なんでもできるお母さんの手が、ぼくは大すきです。

学校に行くとき、道をまがると、右と左の手を入れかえ

て、お母さんが車がわの道を通ります。「お母さんがぼくをまもってくれるみたいに、ぼくもお母さんをまもりたいな。」と思うようになりました。

「れんくんの手は、こんなに大きくなったんだね。」

と、お母さんはぼくの手をにぎったりはなしたりしながら言いました。ぼくは「そうかな。お母さんの方が、ずっと大きいかな。」と思いました。お母さんの手はすべすべで、いいにおいがしました。

「れんくんは、これからもっともっと大きくなるよ。学校へ歩く時間も、一年生のころよりずっとみじかくなつたでしょう。」

と、お母さんが言つて、ぼくはどう校にかかる時間が、一年生のころより十分もみじかくなつて、はじめて気がつきました。

「わあ、本当だ。ぼく、足がはやくなつてる。」

と、ピョンピョンとびはねました。お母さんとハイタッチもしました。ぼくの手とお母さんの手がびったりかさなると、「ぼくの手、やつぱり大きくなつていくかも。」と思いました。

お母さん、ぼくといっしょに歩いてくれているかと思う。ぼくは手のひらもせの高さも、これからどんどん大きくなるよ。もしたら、こんどはぼくが、お母さんをまもつてあげる。まほうつかいみたいなお母さんにまけないくらい、なんでもできるぼくになるから、たのしみにしていてね、大すきだよ。